

體源鈔

和書門類			
一七冊	三八架	八九函	二七六九二號

庫文閣内		和書類
元九函	二七六九二號	
大架	一七冊	

(六十才)

内閣文庫		
番號	和 27692	
冊數	17 ( 16 )	
函號	199	132

十二ノ下



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



班婕妤

孝成帝后

明治十三年藏本

列女傳ニ云ク

班婕妤、孝成帝之時、婕妤、賢

又通辯、帝、帝ニシテ、同、辭、曰ク、古、圖、畫、ヲ、觀、ル、ニ

賢、聖、ノ、君、皆、名、臣、ヲ、出、テ、側、ヲ、用、ニ、代、ハ、未、テ、王、ノ、女、嬖、ヲ、コ、レ、

ニ、ク、レ、事、死、ヲ、得、ヤ、太、后、コ、シ、ヲ、同、テ、喜、ラ、云、ク、古、ハ、樊、姫、アリ、今、

婕、妤、アリ、後、趙、ノ、飛、鸞、カ、姉、妹、寵、アリ、婕、妤、ヲ、云、ク、即、

挾、祝、祖、ス、上、乃、考、回、辭、曰、ク、尋、同、死、生、命、アリ、富、貴、天、

アリ、正、ク、終、レ、ラ、尚、未、福、蒙、ス、邪、ト、シ、テ、何、ヲ、カ、望、ス、ル、又、鬼、神、

知、事、ア、ラ、ハ、不、良、ノ、訥、ヲ、ウ、シ、若、其、知、コ、ト、ハ、是、ヲ、訥、何、益、

カ、ア、ラ、シ、上、善、其、對、ラ、コ、シ、憐、同、全、百、行、ヲ、結、

或、云、班、婕、妤、ハ、漢、武、帝、ノ、后、ナリ、李、夫、人、亦、養、女、出、来、

一、此ホ心ヲ移ラシカハホハサカリタリ而シ思流ラアル  
ホトニ身ノ内ノ變ク若クテ何カスヘキト思フ。蛾眉山ヨリ  
月ヲサシ出ツミテ白衣ヲモラオハ輪ヲハリテ月ヲタルモノ  
ナリトシテ愛スルカ月、清後ノ徳ノアルヤウニオハ輪ニモスレキ  
徳ヲ具シタリ而シオハ輪ニハリテ愛シケルニ仙人トナリテ  
鸞ニ乗テ出ケルニ仕女房達急悲ニヒラセテカクミ  
ハ何ヲカセト申テ歡ケルハオハ輪ニ捨テシケルヲ今ハリ  
傳ヘテアルシ

飛鸞 孝成帝后

列女傳云ク趙ノ飛鸞初テ生ルテ父母アケス而シ三日ニテ死  
セス父母恠テ乃チ取テ是ヲヤレナウサカリニナシ及テ阿  
陽公至リ家ニ属シテ歌舞ヲ一テフ帝曾テ赦行公主ノ  
家ヲ過ク見テ悦フシハラウアリテ立テ后トス女弟ナリ  
又昭儀タリ貴ク後宮ニ傾タリ飛鸞善ク舞ラ體カ  
ロシ故ニ飛鸞ト云

明帝 顯宗ト申

高祖十代之孫 光武皇帝第四之子母ハ陰皇后ト申  
在位十八年八月壬子東宮前殿山崩ス年四十八顯節  
陵ニ葬ス後漢二代之玉シ

永平十八年元年戊午日。神皇仁天皇八十七年。當り八年。己丑歲  
合人東莫。神皇仁天皇十八年。丁卯。摩騰法蘭トニ又之人漢也。  
東レリ佛法。コヨリヲコトナリ。

王高 又名高化

後漢書云ク王高字子晉 阿東ノ人ナリ 顯宗ノ時 兼縣  
ノ令ナリ 高 神仙術アリ 月ノ朔望晦コトニ 常縣ヨリ 臺ノ洛  
テ朝ス 帝其来シノ事ニバクニシテ 東騎ニ一カニ事ヲアヤシ  
ニ 臺ノ大史ツレテコレヲ 伺ヒ 望ス 言ハク 其曉ニイタコト 雙  
鳧アリテ 東南ヨリ 飛来ナリ コトニ 鳧ノ至ヲ 伺テ 羅ノ罽ヲ  
コレヲ 長ン 但シ 獲ノ留ヲエタリ

○蔡邕 月令事アリ 禾黍事 秋ノ  
後漢之世ノ人ナリ 長笛ヲ 作ル 又琴 絃九絃 成人ノ

蔡琰

蔡琰 別傳云 琰字文姬 中郎將 蔡邕カサニ 年九  
歲 邕夜琴ヲ引 絃ヲ絶 ヲ 琰カ云ク 弟ニ 絃ニ 邕又一  
絃ヲ絶 ヲ 以テ 同之 琰カ云ク 弟四ノ 絃ナリ 邕コトカラ 曰ク 汝  
サレテ 中ヲ 得耳 琰カ云ク 昔ニ 季札 風化ヲ 視テ 國ノ存亡  
ヲレシ 師曠 律ヲ 吹テ 南風ニ 足サレ 事ヲ サトル コレヲモテ  
コレヲ 推シ 何以 不知ナリ

靈帝

明帝 五代之 孫 肅宗 章帝ノ 玄孫 解瀆 侯ノ 長子  
ナリ 母ノ 董夫人ト 申在 位北 二年 崩年 廿四 文陵ニ 葬ス  
後漢 十一代ノ 王也

建寧四年

元年咸平日本成務天皇亦八年當

嘉平六光和中六年

光喜一望笙篳篥ヲ好人ナリ

相服

靈帝ノ臣ナリ笙篳篥ヲ作ル人

陳操

後漢ノ世ノ人高麗樂渡スモナリ

魏武 五代間四十七年

琵琶ノ作ル人魏之韓疾ト云物ハ三天ノ劔ヲ常ニ夕

少シ心其劔ヲ口吞リ魏王ノ頭ヲ切ラ自ラ王ト成リ

魏之武王ト云ナリ

宋孝武帝又云宋世祖孝武帝ト云諸侯王ナリ

律駭孝年号ヲ立テ建元二年トス

甲午ノ合テ

三年年号ナリ即後魏ノ文成帝所任三年興光元

年ハク日本要寧天皇元年ハ當大明ハ

晉 十三代間百廿二年

西晉四帝 五十二年 東晉九帝 八十一年

阮咸

竹林之七賢之其一也字仲容又竹林之高士ト云

琵琶等ヲ引人任達シテ不物律父籍ト竹林ノ遊ヲ

十人顔延年カ五君之録曰ク仲容青雲之器ナリ

竹林七賢者 嵇康字詠夜 阮籍字嗣宗 阮咸字仲容

向秀字季子 劉雲字伯倫 王戎字季道 仲山濤字巨源

晉平公

師縉

篋篋引人又琴引

師曠

陳後主

宣帝之嫡長子又云陳高宗之嫡長子律律寶字

元秀階高祖大定三年拜威王陳後主之至德

元年日本敏達天皇即位十二年當在位七年

大定九年己酉歲之即此年當隋之煬帝之

ホロホカレ又

隨煬帝 三代間廿八年

隋高祖少子諱廣小字阿麻母之文敬獨疏皇

后申在位十二年大業十二年

元年日本推古天皇即位十三年當

隨代二代之王十大業元年三月發江南男女百

余万用通海渠江南造龍舟鳳船黃龍亦艦樓亦數

万艘八月王上御龍舟幸江都舳艫相楫二百余里

同二年二月車賀發江都同六年三月幸江都同七

年二月上自江都御龍舟入道海渠還幸綠都

同十二年七月甲子幸江都宮階恭帝元年義軍元

年丁七煬帝尊太上皇上唐之高祖神堯皇帝

武德元年甲子字文化ノ夕大コカル或大宗夕大コロ

ナルト字文化ハ太宗ノ御名ナリ太子傳云推古天

皇十六年御歲亦七秋八月子鹿ノ王使貢萬物因  
人言曰倍煬帝興亦万泉ヲ攻我返ヲ為我取破故  
獻俘虜貞公普通二人及鼓吹好弓祝石類十物  
并土物駱駝一疋

曆録附レテ云隋煬帝却大興太上皇為宇文化  
及等所殺於江都恭帝道位干唐王唐高祖神堯  
皇帝受隋禪帝皇位政元武德隨滅唐興

唐太宗 又云太宗文武大聖皇帝廿代二百八十九年

高祖神堯皇帝之弟二之子ナリ蓋四文廟諱世民  
母大穆皇后貴氏在位二年三年金風殿崩ス年五十二

或五十二 八月昭陵葬ス唐代二代ノ王ナリ

貞觀十八年元年下元日本推古天皇七年意破陣亦益ヲ

創又十九年玄奘法師施テ歸ル

高宗皇帝上元年諱ヲ改テ文武聖皇帝トス玄宗皇帝天宝八年諱文武大聖同十三年増益文武

此帝ハ七德アリ武藝二文也正見四政治五至

道六柔應七慈願又魏徽ヲレサセ給テ後世

間速テ御又間俄一人宰相出来テ御意叶テ奉仕

三年其後去ナトスルトキ流沙東地真ト紫ノ仙衣

一車トテ獻テ申テ云ク昔ハ漢字奉テ強仕テ專シキ

今ハ仙洞ノ宵テ帝代奉テト云テ失早又是則魏

被カ化テ来ルニ其後秦山ト云所行幸アリ是

秦山符若ノ在所ノ還所道。青衣童子アテ一卷ノ書ヲ  
捧ラエックアヒカタキハ賢王ナリ此書ヲ奉ラセテ奉之説テ  
コレヲ見給。前ノ百王ノ間ノ理乱ノ相ヲ明ニ出ル事ナリ故。  
太宗文皇帝流沙ノ東道ヲエテ横ニ四海ノ安花ヲ皆カミ  
望ニ百王ノ理乱ヲ悉クシメ給。其仙衣ハ交ハスレシ冬  
ハアタカカシテ火ニ入トモヤケス水ニ入トモヌス極ク至寶ニ  
長孫無忌 長孫ハ姓無忌ハ名ナリ  
貞觀七年十一月為<sub>大政大臣</sub>官。同十六年七月為<sub>大政大臣</sub>司徒。是  
為<sub>大政大臣</sub>大尉。及緒遂良遺詔轉政高宗十年顯慶四  
年四月謀反伐辰忌ヲ懸列流ス

魏徵

太宗之臣ナリ

馬頰

太宗之樂人ナリ

高宗皇帝

又天皇大聖大洪孝皇帝

太宗皇帝第一ノ子諱詔字為善冊。文德皇后ト申長  
孫氏ト申貞觀十三年大月甲戌即位。四年十二月丁巳夕  
正祝殿崩。年六十五。諡天皇大帝。就陵。葬ニ唐代三代  
ノ王ナリ。既高宗天皇ト号ス。八載諡ヲ改テ天皇大聖トス  
十三載今益ヲ増

永徽六年元年庚辰日本孝德天 顯慶 武龍朝ニ麟德ニ



乾封二德章二成亭四。上元二儀鳳三。調露一。永隆一。開耀一。永停一。弘道一。

。張文成

太宗高宗亦臣松花姦人好色ナリ。則天皇后密文ナリ。高宗十九年儀鳳三年九月薨年七十二。極態

。則天皇后又則天大聖皇后。又順聖皇后

尚書士羅カ。女ナリ。文士羅后年十四太宗選為女人後為

后高宗幸感業寺見而祝し入宮立為昭儀進号震妃

之后唐代四代ノ女王ナリ。諱照立姓武氏各ハ工部在位廿

一年

劍聖一年

甲申八月日本武天皇  
十三年アタレリ

岳撰四。神切一。聖一。曆二

。久視一。大足四

。中宗皇帝 又中宗孝和皇帝ト申

高宗ノ子ナリ。諱顯母( )在位五年崩。唐代五代之王也

神龍上

し己日本大宝  
三年ニ當ル

景龍四

此帝ノ母娘給( )高宗ウラナワセテハ皆女子ノヨシヲ申乃

玄婢三藏。勅レテ女ヲ博シテ男トナスヘキヨシ祈申サセラ

ハ。間赤キ崔后ノ因ニ高宗玄婢ノ間ニ男トナルレルシ

ト申即男子トナリ給。其色尚女声ナリ。高宗崩シテアトツクキ

才子ニツケテ佛光子ト名ク而高宗崩シテアトツクキ

人ナキニハ位ニツケテ中宗ト申ナリ

王孝

中宗ノ宰相ナリ

玄宗皇帝

又云玄宗在道大聖大明孝皇帝  
笛吹霓裳羽衣舞作

高宗ノ孫睿宗ノ子三子ナリ 諱隆基母昭成皇后ト

申實氏ナリ大極元年 壬子 改ヲ延和ト云 又改ヲ先天ト

云在位四十四年 唐代六代之王也

大極一 又改延和又先天季ハ此日本元明天皇 和銅五年ニ當ル

天寶十四此歲十一月安録山カクメ蜀山ニウツセ給

フ 肅宗元年至德元年 丙申太上皇トス同御宇ハ

年寶應元年 壬子 神龍殿山明年 七人 秦陵 葬ス

。楊貴妃

弘農之楊玄 瑛カサナリ姓ハ楊名ハ真玄宗 納ラ后トス 琵琶

琵琶引舞妓ナリ此ハ馬嵬城之大鬼物也 化ラ奏サト

ナレリ天子コレヲサトラスレテ愛ス。驪山宮ニユキレテ霓

裳羽衣ノ舞ヲセサセテ 御覧アリ天寶十四年之冬安

録山カクメコロサレキ

。葉法善

隨之煬帝大業十二年丙子歲生シテ 唐ノ玄宗用元 庚

申歲 死ス年百五歳

。代宗皇帝 又代宗春一聖太史孝皇帝ト申

肅宗之太子 諱豫 母在位十七年崩唐代九代ノ子ナリ

。廣德二 元年 聖御日本孝謙 永泰一。大曆十四

。德宗皇帝 又德宗聖 神文武皇帝ト申

代宗之子諱母リ在位七五年 崩年

建中四元年庚申日本 興元一貞元廿

白樂天 又大原白居易ト申

文道之大祖ナリ委細万秋亦篇アリ

武宗皇帝

子諱奕母リ在位六年 崩年

唐代十六代ノ王ナリ會昌六年元年辛酉日本永和八年

李德祐

武宗ノ宰相ナリ累頭亦作者也

馬融

夢リ林花リ錦繡ナリ夢リ中山花ヲ

食トリ子リ天下ノ文帝トスルトナシ

時ノ又ク靖泰ト号ス武陵七十二仙傳トナリ

越王勾踐

是人ノ越之國ノ王ナリ吳王夫差托テ吳ノ國之王ト敵ニテ

ナリテ其故ハ兩國ノ境ニ會稽山ト云ハ山アリ件ノ山ハ

山下ニト云モ猿ノヲホキナルカト云ハ編子足ナトナル也

其トフテホカルヲトラムトラ昔ヨリ兩國ノ中惡クテトモス

レハ合戰ヲスルナリ或時ニ國ノ王此山ニ合戰ヲレケルナリ

吳王ハ勢モヲホク滅モ勝リタリケレハ越ノ軍破テ勾踐

イケトリニセラレニケリ范蠡許コト所ニ消息ヲ魚腹ニ入テ

商人ヲ作テ遣シテ見ルハ其狀云ク命ヲ存テ降リ乞テ

出ト云ハ勾踐降ヲ乞テ向ケレハユルサムトシケレヲ吳王ノ  
 臣伍員ト云字ハ子胥ト云サテ 伍子胥ト云賢キ物ニテ吳王ヲ諫ラズク勾  
 踐ハ賢君ノ種ナリ范蠡ハ良臣ナリ若コレヲユルナレハ君  
 ノ夕メアシカリナシ吳ノ越ヲ持タルハ版ノ病ナリ天ノ与ルヲ  
 取ラサレハ殊ヲウク願ハ早ク斂シ終トイヒケルヲ不用シテ  
 遂ニユルシテケリサテ興ニ乘ルトキサ物ヲフモヘテノラム  
 トスルニフテテ其物息ツフキイタタルカ雲トナリテ上  
 ルヲ惟テ立返ラモレハ一ノヒキカレナリ以之思ヤウハ安シ  
 キ物ノフク息スラ天ノホル我思立ハナトカ悉クチサラ  
 ント思テ出ミテ其後吳ト越ト中者ナリヌ也國和  
 美ニテノ件ノ山ニ銅ノ七章ノ塔ヲ立テ面合ニヌラムト

テ金千兩銀千兩日本國ハ兩國ノ王同書ニ乞ヒカハシ  
 タリケレハ日本國ノ王己ヲツカハサレタリケレハ思フコトクヌリテ  
 ケリカワハアレト越王ノ心ハナリトケヌシテ争カ吳ヲホロ  
 ホサムト思ナリ越王ノツハモノニ大夫種ト云物ト吳王ノツハ  
 モノニ大夫種ト云モノツカタラヒヨセテ多ク寶ツトラセテ  
 其心取伏テ告ラズク汝吳王ニ申サレヤウ越ノ國ハ國ユ  
 タカニ寶多ク若我ヲセメ終ハスハ此國ヲ奉テ我身ハ  
 君ニシタカヒテ僅ニ一郡ヲ給テ身ヲ安クシ人命ヲ全クセ  
 若是ヲ用終ハスハ此國ヲヤキウニナイテ命ヲステハアヒ  
 タカハ此國ニ入スクナシトイユトモ心タケキ物ナキニモ  
 アラ子ハ君ノ夕メモヨシナカレトイヒヤリタリケレハ吳王

キ、テ、マコトニモトラ軍ヲトメテウチトケニケリ伍貞ハ  
カモ越王ウイニ吳ノ夕メ、アシカリナシト申ケシトモ大宰  
駱カ申事、ワイラ聞給ハ子ハヨシナシトテ伍貞ハサレ  
イワル事モナクテアリトシ、越ノ國ハイカモ先伍貞ヲ  
ホロホサムト思テ大宰駱ニ終言スルヤウ伍貞カ世ヲ  
ホロホサムトスルヲハ君レハ結リキトイヒケレハ  
吳王汝ハ子トモ我モシリタレトテ伍貞ヲトテ  
ラコロサトス其時伍貞カ云ク我死セ後眼ヲ取テ  
吳ノ東門カケヨ我君ノ我コトク用スレテ遂ニ越王  
ホロホサレシヲミムトイヒケレハ吳王イヨクイカリテ  
伍貞カ子ハ伍尚伍奢トテ二人アリケルヲモコロサトテ  
早ク文ヲカキテ汝カ子ヲコトセメケレハ我死ニ至ルト  
モ君ノ作

ヲハワムカシト云テナク、子文ヲカキテ云ク兄伍尚ハ  
孝ノ心カケレハ定テ来ヘシ弟ノ伍奢ハ孝ノ心アサケレハ  
アヤシミテヨモテヒラレワイニ君ノ歎トナラシト云テ死  
ニ誠ニ伍尚ハ来ウケレハ顔キリテケリ伍奢ハ来ラ  
スミテ越ノ軍トモナヒテケリ伍貞カ眼ヲハイヒマ  
キテ事ナリトテ吳東門カケテケリ伍貞ウモテケレハ  
吳ノ國ヨハクナリ又則越ノ軍吳ヲセムルヒ吳ノ軍大  
ヤシ又伍奢一陳ス、ミイテハコハクタカヒテ吳ノ軍  
ヲトシテケリ吳王ハウリハ出タリケルカ越ノ軍ステニ  
シコミ入ラ吳ノ城己ヤケヌトキ、テイソキカレハ  
吳ノ東門ヲスクトラ伍貞カニナクハコニカヤクセナルモ  
ヲトテ恥テ面ニ袖クホヒテコソスキケレ則越ノ軍行向テ  
吳王ヲ打テ

ケリ兜況志ト云文ハ他復又ハ公孫聖ト云口天王他復ヲ  
コロシテ正山ノ禁ニステ、後其取ノ行ニ足スクニテアユハレサ  
リケレハ他復カ靈ノスルニョソト思テ大宰詔ニ告テ云ク我  
ハスム事アタワス汝サキニユケヌコロミニ公孫聖トヨヘトイヒ  
ケレハニ度公孫聖トヨフヒ三度コタヘタリケリ其時吳王  
ノ名ヲ蒼天、一、真人ツヒニカレレムヤトイヒテ命ヲハリヌ  
ト云ヘリ

史漢書ニ云ク大宰詔カ諛言ニヨリテ屬鏤ノ劍ヲ伍子胥  
ニ給テ此ヲモヒノ死ト云ヘ伍子胥天ニ作テ祈テ云ク諛臣ノ世  
ヲミタラムトスルヲシラスレテ還テ我アコロサムトスルヤスカラ  
ヌ事ナリ我君ノ父ノ王ヲ世アラシメタル事ハ編ニ我カラ

ナリ今ヘウラレ物ノ中ニツイテ忠アル物ヲコロサレハカナシキ  
事ナリト云テ其宗ノ物ニ告テ云ク我死ナレバ口カ眼ヲグレリ  
テ吳國ノ東門ノ上ニウケ越ノ兵ノ入テ吳ヲホロホサシメシ  
レウナリト云テ自頸ヲハ子ヲ死ヌ其後ホトナク越國ヨリ  
一軍ヲコリテ吳國ヲホロホシツ眼ヲクニリテテナシク云  
事、祓ニ此レヘキナラ子トモセメテノイキトヨリニタヘスレテイ  
カメシキ心ナリ則三十六寸<sup>ト</sup>楯<sup>ト</sup>楯<sup>ト</sup>古蘊<sup>ト</sup>臺<sup>ト</sup>モ皆滅ニヤ  
又屬鏤之劍<sup>ト</sup>ハ劍ナリテリハカリモ人ノ身ニアタリヌレハヤカテ  
切ルモノナリ漢朝ノ習ニテ臣下ノ家ニアルヲ旌<sup>ト</sup>名<sup>ト</sup>寄<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>  
モ劍ヲ遣<sup>ト</sup>是<sup>ト</sup>ヲ<sup>ト</sup>楯<sup>ト</sup>頸<sup>ト</sup>アテ死<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>ト云事ナリ  
サテ苑函カ計<sup>ト</sup>コ<sup>ト</sup>テ思<sup>ト</sup>コトク吳王ヲホリ越王ノタメニ又

ナキ物ニテアルヘキヲ尚イタリテ賢キ人ナレハ越王。書ヲ奉  
テ申ケルヤウ君ウレヘアラセトキハ臣ハ予ヨ君ノハ予ハ臣死  
ヨト申ラキテ侍レハ余ヲスツハカリシカトモ其ヲスキサリシ  
事ハカク君ノ敵ヲオトナリ今ヌテニ大事ヲトケツ大若  
ノシタニハ久クアル一カラス飛鳥ノキヌレハ良弓願ハクシイ  
トニヤ終ヘトナシイヒケル越王ヲシテスレシ給ハサリシトモ  
君。頂長鳥口ノ相イテス是賢人ヲ客スル相ナリト云テ  
ヒツカ。婁子ノヒキサテ舟一艘ヲリテ五湖ト云水海ニウ  
カミテサリケレハキハヒテカナレヒウレヘテハルカニミサリ  
終ハ雲ノ波ニホカクシテ汝國ニワタリニケリ越王ヤセカ  
カタナクテ金ヲモテ范蠡カ取ライテ會稽山ニシテコレ

ヨマツリケリ勾踐ハ後ニツイニ吳ノタメニウタレニケリ越  
ノ國ニテハ范蠡トイヒ次ニ汝ノ國ニイタリテ鴉夷子  
皮トイヒ後ニ洵ソクニイタリテハ朱公トイヒヒキ國ゴトニ  
子ある金ヲミテリシ人ナリ十九年ノ間ニ之度千金ノ  
イタストイヘリ。陶朱本ハ太伯星化ニテ東方朔トモナリ様  
々ノ身ヲ愛シ世ニ在コト一万年ノ間也後ニ况命山ニ登  
ニキ五湖トイハ大湖舟陽、青草、范蠡、謝陽、或  
ハ青草、洞庭、范蠡、青松、大女ト云松青トモアリ  
又伍子肯死ニテ大江、ステラレ又其靈水神トナリテ白  
馬ニノリテアテハルトイヘリ  
又吳王越王ノ夕カヒノ時或臣越王ノモトへ酒ヲ一椀モ

テマイリテ御喉カキ給ラムトテマヒラセタリケレワ我トモ  
ナウ軍ハ皆我カハラムトスルモノナリ我一人吞ヘカラストテ  
河ニ此酒ヲナケ入テワリ流ヲツハモノニナノメトテノマセラ  
レケレハミナユシキ酒ニテナレアリケル心サシノイタルユヘナリ  
イクサイヨノイチカラツキテ吳王ヲ折落シ早又或記  
ニ此酒ノ事光武皇帝ノ夏トモイヘリ  
向子 又向子期ト云  
晉書云ク向秀字ハ子期清恬ニシテ迹識アリ嵇康  
鉅善く秀コカ作タリ相對テ傾然ス後康誅セ  
ラレ秀思舊賦ヲ作ル詞云ク隣人笛吹者ノ聲ヲ致  
ニ零亮タリ追テ想疇昔遊宴ノ好ナリ

伯牙 琴川

列子云ク一琴鼓志ニ尚山アリ鍾子期カ云ク善哉  
峩々トメ大山ノ如シ志ニ流水ニアリ鍾カ云ク洋洋トメ江  
河ノ如シ鍾期カ死ニ及テ伯牙絃ヲ絶テ又琴ヲ鼓ス  
知音ノ永ク絶タルコトヲ痛ナリ

戴逵 琴川

晉書云ク一字安道譙國之人ナリ善琴ヲ鼓ク武  
陵王晞コレヲ召ス逵使者ニ對テ琴ヲ折破テ云戴安  
道王門ノ伶人タルニアタワス晞好ニテ更ニ其兄述ヲ川  
述傾然トシテ琴ヲ摧往ナリ

嵇康 字外夜長ハ丈或ハ尺ニ



燕國之人也笛ヲウクル亡賢之其一也極々美人ナリ山  
公カズリ外夜カ人トナレル巖々トシテ狐松ノ獨リ立ルカ如シ  
其醉ルコトナ愧然トメ玉山ノクツクナムトスルカ如シ柳ヲ  
庭中ニ值テ歌ヲ愛セシ人ナリ

公主

馬孫國之王也漢之世之人也五臣注云ク馬孫ノ王馬  
ヲ漢ニ獻シテ公主ヲ尚子ヤリ則江却王ヲ還セラシテ  
公主トシテ以テミアワス琵琶ヲ作ル人ナリ

趙壁

五絃ヲ彈シ人ナリ  
晏龍

琴ヲ作ル人ナリ

井伯益

琴ヲ作ル人ナリ

蒼皇

琴ヲ作人也

高漸離

筑ヲ擊シ人也

倉龍

篳ヲ作シ人也

暴辛公

埴ヲ作シ人也

大忠連

貴養成

大忠連カ子

廻忽之作者ナリ

五常公

五常カ作者ナリ

礼儀公

五常樂ノ作者ナリ

音生公

皇唐ノ作者ナリ

陳興公

喜春樂ノ作者也

班養強

胡飲酒ノ作者也

蠻國

大唐西夷アリ東夷南蠻西戎北狄是也此内南

ヲモテ蠻國ト云彼國之王ノ姿ヲウツシテ胡飲酒ヲ作ルナリ

胡童

胡國之童ナリ漢朝之北國ナリ又胡塞ト云又胡城ト云

合管青

春鸞轉ノ作者也

昭予山

右大畧乐器ヲ作り樂之作者也又其代ヲ為知哉  
之モアリ猶見出ニ隨テ可注之定テ文字分明ニ  
侍ラニ後見ル人可書直者也

京極太政大臣宗浦公ハ蜂をい〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜ハ楚の中〜

据舞の心出仕のこころ車のこころの物見よりめら  
けのこころまれののねくれの毎さうせまの蜂飼の大臣殿  
こころまの不思儀の徳おりの人びる漢の蕭芝の  
維を志すこころにまけるまのこころの次は殿の蛇をういねを  
世人の意のこころいひまの種よお月の以る羽院を蜂  
の巢よりよ落て御前よおのこころまのこころまの  
人こころまのこころまのこころまの相玉の赤の杖  
把のまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
まのこころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
らこころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの

一際院御位の時 眞方中將の奏の試楽よこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの

同院雪の面白ぬのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの  
こころまのこころまのこころまのこころまのこころまの

遺愛寺鐘鼓聴香爐 奉電撥簾看

彼法也細云天曆時梨壘五人の哥仙傳系  
元補女もや大和とのそい家の風吹傳きも  
うんんらまもりやう優りありまもり  
ましいえしととおひりりる号乃こるあつた  
い源氏物語はくまの紫式や希深あつた和泉式部  
式の内侍小太夫侍勢大補出羽弁小弁馬内侍江  
侍屋し得法新宰相兵衛内侍中納言とて  
女房少もあまのつらり西門の常王よてあり  
まもりもあまのつらり西門の常王よてあり  
たこひよまもりもあまのつらり西門の常王よてあり  
細云とてまもりもあまのつらり西門の常王よてあり  
世は仕もあまのつらり西門の常王よてあり

考僧の撰何の慈惠大信普度澤の寛細僧の  
したりり内裏と五博の御法法何り信と慈惠  
は不動尊と成。寛細の降三世と現しと出ると  
多しあまのつらり西門の常王よてあり

和名出の事末代は寄信法花經に載れ名とて  
いへりいふふ書物に記す是經のまもり物  
の教も何の初大の中よりまもりもあまのつらり  
て後代はまもりもあまのつらり西門の常王よてあり  
後代はまもりもあまのつらり西門の常王よてあり

円融院まもりもあまのつらり西門の常王よてあり  
て當時の人まもりもあまのつらり西門の常王よてあり  
天曆もあまのつらり西門の常王よてあり





此句を、和漢ともに何れあるべきかと及正天皇がこれ  
を、後御牙允恭いなり皇子とあり侍りし時久く舊  
舊疾は濃給り多しと群臣あるうちよすめは、  
て位より御給りなり其後使を新羅に遣はして彼五の  
醫者と迎寄て以病を治くらしむるは、  
殊に賞して本必へ返せぬなり其例をきくは、  
ひて吳國よりもも一送りたりや

新宮の舞合判若し源明なるなり、女房をあらわし  
や、  
女郎花の、  
花色如燕粟 俗呼為女郎 聞名戲欲翠 借老思  
表箱首似霜と頰かまきき、

西白く同類あはれ、あやしくは日ゆり粟むち、  
いとと聞はるやうな、小魏文帝と鍾大理書  
之詞云

養玉白如截肪墨譬純漆赤擬鷄冠黃伴燕粟

このあをみ、  
惣分判、其々字、  
や、

上东门院の御方よ、  
よこの女房よ、  
つとむらふよ、  
つとむらふの、  
ふりやあ、  
系極大敵の御時、

つゝさるよふりて二日沖遠海にのりてさしきりてありけり  
日還沖ありハ花洛に字治より共よりにて日ふり  
此はけりこのきき先いふとてしよは殿下沖遠根深なる  
行家御座申て云字治に都の南よにあつた表撰あり  
我居都の長也とすすむ世にうち山と人いふなり  
こゝ先りてさしきりてのいふとてあつたとすれり此旨を奏  
聞をきれりそ日還沖のいふなりあつた感あり人又奏  
淡とす  
成徳氏アツとありて後知りてさしきりて内裏より奏しきり  
一昔女房入立をありて人のいふとてさしきりてありけり女  
房乃中「むむ」を思ひて  
雲は上ありてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
ともいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり

絶よ小松のいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
あき木のかきりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
をりてさしきりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
よそ文字「よそ」をさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
平等院僧正行尊の出世の貴のいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
いふとてさしきりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
るいふとてさしきりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
知りてよふりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
中將筆時元笙女房和琴大臣共人中務少輔忠定を庭  
よ召て算策つりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
はくさしきりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
西弁小法性寺座主仁實御前より御遊のいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり  
此は絵をさしきりてのいふとてさしきりてのいふとてさしきりてありけり









大江匡房記云 和秀の道よりして往年大人の輩あり  
取謂範永棟仲頼實兼長経衡頼家也年へく  
の穿みれ逝去して礼家伴のころたりと云ふは仲  
とりのもの男列より礼家伴へ寄るよりと云ふは君と我  
と相まぬよといふのころよりと云ふは先づ礼家怒て云  
仲そのころの六人輩よといふは伯耆と我と終る生  
孫もやそと云ふぬと云ふは高よりなりり  
遍昭寺より山家秋月と云ふは秋より終る中  
範永頼房義人等々時の事

すむいふれは山家との秋の夜は月の光もさびしかりり  
也あつと件の懐成の子業共を定彩中細云と云ふ  
公任の出家して孫名やふりり其山長各と云ふ取  
りてはかりりしころは孫名を寄るをぬく感歎

ていふおれもいふれ範永頼人等々和秀を伴をえたり  
と月筆よりて云つては中らありりもる也範永よりて感  
はたふりその懐成をいひりりて孫の懐よのこゝ實  
物とておれりりこれと稱表のころ何よりと云ふ  
れらやうおれは終りり人のとてと云ふ

或又云そ織、井テハ其事ヲワトムヘシ其人ニシタカヒテハ  
其ノコトヲ、クルヘシタクシテハラコルヌナカレマツレクシテハ  
ハツラウコトナカレ人長短ヲイフ事ナカレコレカ長ヲアラワスコ  
トナカレ高人ニ陪テハ齒ヲイタス事ナカレ衆ニ交テハ夕  
ワフレヲナスコトナカレ人施シテハ思コトナカレ施ラウケテハ  
思コトナカレ慢人バアウヘカラス 僻人ニ答ヘカラス等々口口  
李ノコトクニスヘシ忠臣以テ西ニ奉リ仁愛以テ家ヲ顧

將、秋竹ノ節ヲ盡シ誰カ温樹ノ花ヲ語公 松柏草ヲ  
蓬蒿麻アルヘ運ヲハ小叟カ馬ニタトヘ迷ヲハ荀司ノ車  
ニカスカヤノ事ヲをみよふに人のみちよるは  
ひり諸善法悪心よりそふを  
セすハハ

論語云ク耕ストキハ鋤フノ内ニアリ學スルトキハ禄フノ中アリ  
日安子云ク父ヨケレ身必スハカルヲ南ヨケレ身ヲノツカラ  
ツカル耳泉ハ必スツキ直木ハ必キラレ  
漢書云ク天ノ與ルヲトラサレハ反テモ各ヌウク時至ルヲ  
セサレ反テ其禍ヲク

淮南子云ク小徳ニシテ寵ヲホキハ一ノ危ニアリ  
位タカキハ二ノ危ニアリ身大切クシテ大禄アルハ三ノ危ニアリ

孔子云ク藥酒ハ口ニ苦ニテ病ニ利アリ忠臣ハ身ニ逆テ行ニ利アリ

淮南子云日月明ラトストモ浮雲コレテホフ河水清ムト  
ストモ沙石コレヲケス人性平ムトストモ嗜欲コレヲ害ス  
要覽云病ハヨリ入リ禍ハヨリ出ツ

礼記云ク叔ハ長スヘカラス欲ハホレイマニスヘカラス志ハ滿ヘカラスホ  
ハキラムヘカラス

周易云ク上位ニ居ラズ下位ニ在ラズ憂ハス氷ハ温  
ハニエナカク火ハ燥ルニツク雲ハ龍ニタカヒ風ハ帛ニシタカ  
ウ書ニハ言ヲウクワシ言ニハ意ヲウクサシ

貞觀政要云ク愛スルトキハ則其惡ヲシラス憎ムトキハ

遂に其善ヲ口スレ  
礼記云ク愛トモ其患カク事ヲシテ憎ムトモ其善ヲシテ  
立ル授ル時ハ膝テカス座ニ授ルトキハタララズ  
食スルモノヲハ入ルカニス義ヲハ人ノ右ニス一ヨ  
菓ヲ君ノ前ニ給ラズトキハ其サ子アラハ其フトコロニセヨ天  
子ノタカハハ削トキハ削セヨ國君ノタカハ中ヨリ可ク度  
人ノタカハハ就

或人云君ノ為ハ削ス諸候ノ凡ハ奉ス  
又云君子ノ凡ハ奉ス諸候ノ凡ハ削ス  
嘉者アリトイヘトモ食セサルトキハ其ウケイコトヲシラス至  
道アリトイヘトモ字セサル時ハ其善コトヲシラス

孝經云ク其父ヲウヤヘハ則子悦フ其君ヲウヤヘウトキハ  
則臣ヨロコブ其兄ヲウヤヘトキハ則弟ヨロコブ  
覆テ外ナキハ天ヨリ其徳ヲラスト云フトナシ載テ衆ヲ  
トナキハ地ヨリ其物ヲイスト云フトナシ天地ハ一物ノタカハ其時  
ヲ在日月ハ一物ノタカハ其明ヲタラクセス  
乞詩云ク貴キ者ヲハ賤キ者コレヲニクム富ル者ヲハ貧ル者  
コレヲニクム智アル者ヲハ愚ナル者コレヲニクム  
婦ノ長舌ナルハコレロサワヒノハナリ  
漢書云ク人一世ノ間生スルコト自勉ノヒマラスルルカコトシ  
智者ハ千慮ハ一失アリ愚者ハ一慮ハ一徳アリ  
例ハフヒテ莫ク子カニヨリハシカニ退テ細クムスハニハ

水至清ルニ則魚ナシ人至テ密ナルトキハ則徒ナシ

魯氏云ク上智ハラレ一サレトモ成ル下愚ハヲレウトイトモ学

シ中冓ノ人ハヲレ一カレハシラス学フモノハ年毛ノコトヲサレト

モ成ヌモノハ猶シ麟角ノコトレ

家語云樹レワカサラムトモ風ヤニス子ヤレナワムトモシト

モ親ニタス

曾子云其源ヲニコラシテナカレノキヨカラムコトヲノリテ其

形ヲ曲ノ教ノラルワミカラムコトヲ、モワ

庄子云ク富ルナキハ則ラシコトヲホシ壽チチカキハ則耻

ヲホシ

要覽云ク袖羅之鳥高クトハル夏ヲ恣ニ遊釣ク魚ウハ

ヲレノハサレテラウウラム

舟舶ノ海ヲワタレ必ス棹楫ノ功ヨシ鴨鶴ノ雲ヲ凌ク志羽

翻ノ用ヨシ

火ノモユルコトヲヒクムテ薪ヲクテ其ホノヲヤメムコトヲソソ

ミ池ノ濁リ急テ波ヲカイテ其流ヲスエサムコトヲ、モワ

呂氏春秋云ク船ヲカモテ釣ヲモトメ林ヲ守テ免ヲ得

文選云流長、時ハ則濁カク根深クシテハ則カレカクシ

高天ニ踊厚地ニ踏ス

シラシ頰ニ井ヲククク麝ハ柄ヲ食テカリハレ

管ヲモテ天ヲウケヒ昆虫ヲモテ海ヲ測ル皮クチスレハ毛ヲツ

川カレヌレハ魚死ス

水、ウテモ盗泉ノ水、アノコトナカレ、悪木ノカケニヤスニサレ  
顔氏、云、知レテ字モノ、日出テノ光ノコトシ、老テ字、正ハ灯ヲ  
トワシ、夜行カコトシ  
或書云ク、大馬之心、ヨリモツタナク、龜、雀ノ性、ヨリモヲロソカテ  
胡馬、北凡ヲ思ヒ、軟馬、南枝ノ巢  
富貴ナルトキハ、他人合、貧賤ナルトキハ、親戚離レ  
舟ヲ論スルトキハ、則テ幸ヲ忌ル、舟ヲ好ムトキハ、則テ幸ヲ非  
史記外、咸傳云、鈍任ラ、龍ト爲トモ、其父ヲ愛セズ、家ハ任ラ  
同ト爲トモ、其性ヲ愛セズ  
西域、才ト云、韓子云、理正ナルモノハ、其言ヲ直ス、言飾モノハ  
其理ヲ昧ス

或云、智者ハ物ニ任テ急、任セズ故ニ、取捨遠順ノ外、于  
之愚者ハ急、任テ物、任セズ故ニ、取捨遠順ノ外、于一心  
ヲモテ、百君ノ事、ウレシ百心ヲモテ、一君ノ事、アラス

至要抄之中、大用、抜入之 白居易作早コハ不富也人可尋

太山亦不高

山微塵積漸高

願學忽不悟

功勞積自悟

雖性鈍勿退

好自為宏才

雖家貧不怠

勤亦為富貴

利而疎學者

還劣于鈍根



鈍而勤學者

智是如珠玉

落日寂々昏

殘月皓々曙

雖受訓不持

雖持書不知

暗然何過曰

春始徒不耕

若朝空不學

獨勝干利根

隨琢琢增光

引聲而閑覆

澄心而暗誦

是如畫流水

猶如文厨子

常可見要書

秋終不得收

老夕寧得貴

至老體雖恨

及暮齡雖悔

金是賤不賤

智是寶亦寶

一字之恩德

一言之教訓

謹待師君前

敬在父母傍

欲保世思世

老々有何益

暗々有何誇

終以成他物

後必成佛目

尚重於千金

實勝於万玉

敢不皆其奉

慙可隨其意

欲願身慎身

耳与目愁媒  
朝夕鴈如帝  
食是為陣飢  
酒只為用菜  
衣又為隱耳  
年齡更無玉  
日月常不春  
雖若勿嫌老  
雖新勿厭舊

口与舌禍明  
夏冬衣任有  
何飽食成患  
何醉飲成病  
何好羨嫌珠  
鸞鏡新漸衰  
若星老之始  
舊又新之終

雖誇現世樂  
如求今生榮  
恭隨秋尊教  
不索妙法車

勿忘後世苦  
可願來生賤  
常誦一乘經  
誰出三界宅

一淨名經云 衆含音一音ト云フ筈トテテ佛法  
ニ時ヲ天台破之 給仍一音寺 僧ト異名トテ給天  
台者不思後一音ト定給コトハ  
佛以一音演說法衆生隨類各得解トナリ

一。二年強奉在城中 高廟得兒童 詰音好 東坡詩  
高廟 高廟 秦姓 寺履 足下ト云ハコトヨリ  
分ニ推ハレトシ

一若以小業化乃至於一人我則墮性貪此幸為不可

可しりすととと日蓮大菩薩 御哥

郭云

時より山ふまの孫郭の雪さうわさうわさうわ  
初と二首ありしはさうわさうわの字をさうわ  
句停於此の門しりしはさうわの字をさうわ

日露聖人御哥

泊瀬山とてはたすらうわさうわの字をさうわ

一八相者

。生天。下天。純昭。出胎。出家。降魔。成道。轉法輪

入涅槃

八苦

生老病死 五蘊。盛苦。求不得。怨憎。會苦

愛別離苦

一取迷八苦 能成八相

一白銀田鏡 煬帝作 赤銅八葉鏡 白クウニウ

鏡像田融三諦不口文難知

明喻即空像前所假鏡喻昂中

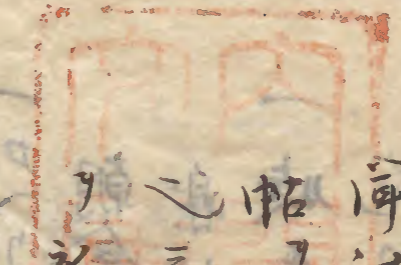
一疏記十三問若因謗墮苦菩薩何故為作苦因

答其無善因不謗亦墮因謗墮惡必由得益如

人倒地還從地起



一萬秋。乐配七品。様次。序。弥勒品也。破。見。仏。聞  
法品。二帖。聞者。佛種品。三帖。聞。離。惡。心。品。四帖  
勸。發。品。五帖。就。成。佛。品。六帖。慈。尊。陀。羅。尼  
品也。和。弥。勒。作。終。十。序。弥。勒。品。下。多。破。見。佛  
同。法。品。下。多。見。佛。同。法。之。縁。一。定。成。佛。上。云。義。心。二  
帖。同。者。佛。種。品。下。云。下。八。是。同。者。佛。種。殖。直。義  
心。三帖。同。離。惡。心。品。者。是。同。者。自。然。增。庭。惡。心  
離。義。心。四帖。歡。發。品。下。者。如。帖。同。者。親。至。縁。者。  
可。成。佛。心。五帖。龍。女。成。仏。品。者。根。鏡。人。女。是。傳。置  
三。成。佛。無。疑。云。義。心。六帖。慈。尊。陀。羅。尼。品。者。是  
萬。秋。乐。係。肝。心。陀。羅。尼。品。下。云。心。地。灌。頂。已。後。傳。心



六帖。六七八九十。説。有。委。細。譜。見。了。灌。頂。已。後。  
傳。心。六帖。終。二。拍。子。又。序。吹。之。事。秘。中。秘。下。云。  
。又。萬。秋。系。拍。子。每。帖。拍。子。十。八。有。回。傳。九。品。景。傳。九  
品。合。二。九。十。八。拍。子。彼。万。秋。系。傳。置。五。十。六。億。七  
千。万。歳。之。後。弥。勒。出。世。終。奉。生。值。念。説。法。利。生。益  
可。預。也。  
吹。音。院。殿。被。作。一。説。慈。尊。者。一。帖。至。四。帖。中。曲  
吹。五。帖。返。付。大。曲。吹。慈。尊。万。秋。系。下。云。也。大。和。  
者。從。一。帖。至。六。帖。中。曲。吹。是。大。和。一。帖。云。終。奇  
者。從。一。帖。至。五。帖。吹。只。拍。子。六。帖。大。曲。吹。  
説。多。下。雜。長。委。旨。一。譜。見。夕。

又高秋乐ハ釋迦佛弥勒ニ付屬袈裟ノ給ニ時万  
秋楽ト云木ノ下ノ籙人草ト云草ノ座ニ袈裟ヲ彼  
付屬之是最秘ヲ云萬秋乐ハ弥勒作ヲ木ノ名ニ  
籙合香ト云草此ハ千ノ上ト云万秋乐ト云木此ハ菩提  
樹ト云故籙人香ハ四帖ノ秘ハ万秋乐ハ五六帖ノ秘  
袈裟付屬ノ時籙人ハ四帖萬秋乐ハ五六帖ヲ云レ  
タリ又云日藏上人藏王權現ノ御誓ヲ六道ヲ廻シ時至  
都牽天奉值弥勒此ハ万秋乐ハ傳受給ニ而テ大國尾  
張濱主傳受我朝来濱主ハ文殊化身ニ是則慈氏  
弥勒古名也一籙合香ハ十二拍子三説序ト云了有  
一説ノ序ハ五拍子七拍子ト云説曰了云四帖ノ只拍子ト

三帖五分處ヨリ拍子ニスル様有秘説ニ曰四帖七拍  
子ト云了有五十一ノ拍子初ノ説ハ返付ニ急ノ只拍子ニ  
返ノ喚頭ト云了云一喚頭返付ヨリ拍子ニスル是世  
流布ノ説ハ一喚頭一返吹ハ二返ヨリ拍子吹説一説  
ハ喚頭ヨリ樂拍子ニスル説有秘中秘ニ能ク可秘ニ  
一籙ハ萬秋楽譜渡ノ様才尊ハ尺迦弥勒妙音  
菩薩ヲ奉懸備花香礼盤ノ上ハ隨志物ヲ歌キ其上  
千クサリセ袈裟ヲ懸菩提樹下ニ天迦弥勒妙音  
ノ名号百反宛唱至礼拜ノ南無妙法蓮花經成佛  
得道姐證書提出離生死祈念ハ此秘曲ヲ令傳受  
也是籙人万秋亦謹頂以後ノ口傳ニ能ク是可秘ニ

和云荒岸以後ト云テト西曲ノ下ハアラズ 譜渡様人  
可受テ了道ヲキクメスレテ如地譜渡スハ道ノ冥加ナキ  
ニ解迦如集畜集殊勒ニ製法付届後或心中ニ思  
出タラニハリテ併況世ハ亦凡ノ冥加アリテ後生ハ  
佛ニ可成ト云テ了テリ此抄物ニ在リ取テ書付侍ト  
ソノ昔ハ万秋ノ一度聞タレ者ニ惡道ニ不落由ク  
ニカニ注付ラタリ其謂左有レ未代ハ一向其義分  
ニテ成佛アル一カニ右譜渡ニ唱タラニハ題目ニ當  
代相應シ導師日蓮大菩薩之所ナカレ代  
所中子ニ成ラケタニ申テ音宗ニ成テ申題目ハ  
文字モカワラ子トモ切徳ナリ他宗ノ唱レ題目ハ  
ワトクニナラズ人ノ不審ヤレニ申タリ能ク此事尋  
明テ可信ナリ

- 一 春寫轉ノ譜渡様本尊ハ阿弥陀觀音 妙音ヲ奉懸
- 一 梅花香ヲ梅花寫ソス工佛ニ奉供此令曲傳シ
- 一 右ノ口傳ニ此曲ニ細アル事ナリハカシ中ウイタテニリ
- 一 阿弥陀ヲカケ可申夏ハ其人ノ信取ルニ謂
- 一 批李花譜渡様本尊ハ花香如右赤白批花ヲ可供
- 一 佛奉ルニ右号至礼拜令傳受シ
- 一 蓮華樂譜渡様本尊觀音妙音赤白蓮花佛ニ奉
- 一 供令梅花香成礼拜ノ唱右号若蓮花ナキ時ウケリ
- 一 花ヲレテ可奉之
- 一 秦王破陣樂譜渡様本尊ハ不動毗沙門妙音ニ
- 一 梅花香成礼拜奉供養物具傳此曲ニ

一皇帝團圞旋講渡樣本尊、妙音菩薩不動思沙  
一門之佈花香、唱名号、或礼拜、銀ノ盤、金鉢、玉、モ、事  
尊、奉供正地敷錦題、笛置、令傳受此大、了、心、想  
マ、上、之、殿、上、無、之、家、ノ、ヲ、男、ノ、不、相、傳、此、曲、コ、ト、サ、ヲ、無、物、秘  
一莫、之、余、大、了、ノ、隨、志、行、ス、ト、モ、能、ノ、有、志、守、リ、器、量、一、可、令  
傳、受、之、彼、口、傳、ハ、世、知、人、少、シ、雖、知、此、口、傳、合、他、人、カ、リ、ニ、モ  
一可、物、語、心、狂、言、騎、語、ノ、戲、ト、不、可、習、是、為、後、生、菩、提、取  
令、相、傳、心

一七五萬秋乐次、極、ラ、他、人、不、可、見、心  
一奎、薛、萬、秋、乐、只拍子破  
一慈、尊、一、首、樂、只拍子付、五、説、二、帖

見佛聞法乐  
元老萬秋乐  
曼陀萬秋乐  
玄朗萬秋乐  
慈尊陀羅尼乐  
天地和合乐  
菩提樹下乐  
一宗法華乐  
唱奇万秋乐  
神仙萬秋乐

乘拍子付、説、三、帖  
自破此帖、乘拍子付、説、四、帖  
乘拍子、日、説、付  
只拍子、付、説、五、帖  
只、説、入、只、拍子、五、帖  
一、二、帖  
一、二、帖  
一、五、帖  
一、六、帖



落夫萬秋乐  
 慈尊萬秋乐  
 大和萬秋乐  
 赤白萬秋乐  
 弥陀引攝乐  
 蓮菓萬秋乐  
 仙哥萬秋乐  
 慈尊功德乐  
 宮高萬秋乐  
 九品万秋乐

五六帖計、連テ吹慈尊終  
 序破二三四五六帖各拍子十八序三五  
 既時者序三五半帖後太鼓之下付返  
 序不吹大曲、切、吹無序吹  
 序破計但破終、大曲吹有序  
 六帖計二反無序  
 二三帖計、連テ吹大曲、序吹  
 序六帖計吹  
 四帖、樂拍子四帖自奉帖大曲  
 五序三品破六品、有録

絃歌萬秋乐

六帖、皆只拍子、吹又現只拍子、時ハ二三四  
 帖只拍子、シテ四帖、才ハ才九ノ自拍子、才拍子、  
 或ハ大曲

大和萬秋乐

六帖、ハ拍子吹之、四帖ノ才ハ才九ノ自拍子、大曲吹  
 延既經說者、五六帖、兩、不、才三度拍子、

慈尊武德樂

譜アリ

乙上

獨、十八萬秋樂、可有五樣萬秋乐、可有三說、有  
 自余心靜了、シト妙音院殿被作三說者、先慈尊  
 万秋乐一帖ヨリ至テ、四帖、中曲吹五帖、返付ヨリ大曲吹  
 了慈尊万秋乐ト云、シ次、大和万秋乐者一帖ヨリ至テ

六帖中曲吹是ノ大和万秋乐云ニ絃哥万秋乐者一  
帖ヨリ五帖ニ至テ只拍子吹テ六帖大曲吹ニ是ノ  
絃哥ノ一ト云ニ三説ト云ニ

十二萬秋乐次也

絃哥萬秋乐。大和万秋乐 慈尊万秋乐

金性万秋乐 曼陀万秋乐 神仙万秋乐

仙歌萬秋乐 唱歌萬秋乐 元老萬秋乐

見佛聞法乐 菩提樹下乐 慈尊功德乐

此十二萬秋乐云妙音院殿五樣万秋乐者

慈尊功德乐 大和萬秋乐 宮高万秋乐

九品万秋乐 曼陀万秋乐 此ノ五樣ト云也

日藏上人ト云万秋乐傳 同上人從弥勒都率ニテ

傳之大国ニ来ル自大同尾張濱主傳之我朝ニ来也

蘓合香ト云草ハ此第草ト云ニ萬秋乐云末此ニ菩  
提樹ト云末也

實自懷中ノ外不可出者ニ完賢ノ此曲尾張濱  
主大唐ヨリ習傳之濱主ニ文殊ノ化身ニ是即慈氏  
作弥勒ノ其名也

蘓合香相傳牙一

彼樂者中平土ノ樂也中平土ハ中天竺ノ名也其後彼  
国ノ王ハ阿育王ト云彼王病惱之時為藥蘓合香ノ葉

ヲ求ルニ師求得タリ彼ノ服メ病惱ノ至處ニ去リ悦ラ此曲  
ヲ作ルニ後ヲ蘓人香ト名ク彼葉ヲ以テ甲トス然間此曲ヲ  
知ル者ハ必ス煩ヲノカル仍此曲ヲ秘ス彼蘓合香ハ木ト説テ有  
リ實ニ草也完眞

蘓合相傳也ニ

蘓合香云事天竺ヨリ香字ト云人傳テ大國ニ来リヨ  
カウカウ共云後アリ

其コト大國ノ王秦ノ始皇ノ御時ニ遙ニ絶リ有シ又玄宗  
皇帝ノ御時蘓合ハニナル也此香ニ字ニ五人ノ子アリ  
今本ニ六人共香字五人ノ子各五調子ヲ付屬ス四節  
ノ子ニ姓ノ人ニ様間一執調ノヲ付屬ス壬戌己ニ

當レリニ世中ニ蘓人香ハ寂ク一ノ秘曲ナリ盤涉調ノ調子  
ニ至テ蘓人香ヲ付屬セシトスルニ盤涉調ノ系ニ世盤涉  
調ノ秘曲蘓人香ヲ大節ノ子付屬セシトスルニ歎申様ハ  
我大節ノ子ナリ様間一執調ヲコソ付屬セラルニキト歎申  
此香ニ字ニヨシク同ニスルアリサリトハ云トモニカ合中  
トイハトモニ姓ヲ覚悟物ナリ様間一コソ調ヲ付屬ス大  
節余リ歎申斗其六ノ有間思食當ニキテアリトテワカ  
香ノ具足皆吹留ル處ニ一不思後ノキトクヲ譲リ給フ吹當  
ル處皆六ノ當ルナリ最秘トシ又終ラズルヲ最後臨終  
及テ正念不乱序ニ吹事アリ  
又空ノ現リ着ノ序ニスルト云後モアリ又我朝ニ渡リ和  
奈部ノ馮純ト云人渡ナリ舞同之

獲人相傳書三

序多ハ七拍子ナリト云々今ハ八拍子ヲ忌テ十二拍子ヲ傳  
束シツレヨリ十二時、當テ十二拍子ト云ナリ又身一ノ秘曲ハ四  
帖ヲ以テ疫病消除ノ説ト云々一条院ノ時精明条ツレテ  
返ツニ行合人七曲ヲ唱哥ニメ口付ルヲアリキ此人是ハ只  
人ニアラス任吉大明神ト云奉ルナリ香色ノ所直云シエハ  
イカントナレハ精明ノ名譽名ヲウレシナレカタメ又神國ノ名ヲ  
モラシカタメ彼是難儀、思食ハ疫難ヲ精明カ身ニウ  
ケテ既ニ死セシ事、治定ナルナリシヲ任吉大明神ノ所又ウ  
トメ四帖御唱哥ヲ以テ、他方世界一消除シ給テ依テ精  
明ノ病悩ヲノカル其ヨリ殊ニ名譽名ヲウラタ如ク共ハハハ  
精明御夢想ノ事

相傳書四

此曲四帖ヲ殊ニ秘シ次チアリ此四帖ハ釋迦佛疾滅道場  
ニシテ始テ正覺ヲ成給テ俱尸那城菩提樹ノ下ニ滅後  
ノ所時唱ノ給テ時袈裟ヲ迦葉ニ授屬シ佛坐蘊合ト  
云草座ニ給テ此曲ヲ作セ給テトニ四帖ヲ移シ袈裟ヲ  
迦葉ニ讓リ佛坐時ノ音楽ニテ有間四帖ヲ袈裟付屬  
ノ樂ト名ヲ猿間ホノ中ニハ四帖肝心トスル可秘之。移疫  
神ノ祝ト云夏有。又南天ノ合軌達ト云管絃ノ先達今  
疫病消除ノ説ト云々神將蘊氏ノ祝共云々又神王除  
病ノ祝共云々又ハキリ行ノ説トモ云々又毎以ノ説共云々  
蘊合香ノ所衣ノ説ト云々了了了又所遊ノ祝ト云々  
アリ

相傳也

此香ノ文字ハ宇治寶藏ニ藏人ノ冠ヲ納ム取出ラ舞ヲ  
立テトス時見失ラ時ハソテ尋ヌ程ニ遅糸アリイカニ  
ト糸人シタリケシアサテトヲモイ待ケル處ニ縁ノ下ヨリ  
是ヲ尋子出ス冠ニ唐草生貫ク事カキリナシ而唐草  
ヲ以テナカラ舞平舞ノ程万座香薰ス事カキリナシ  
此ヨリ香ノ文字ヲ加フ此ハ延喜ノ帝ノ御時ニ是ヨ  
リ今ノ冠ニ唐草ヲ書ハ此因縁ナリ是家秘ナリ

萬秋樂相傳也一

萬秋樂ヲハ舞人ノ家ハ号中大曲ト樂人ノ家ハ号唯大  
曲會要ト云文ハ大和万秋樂ト云貞保親王ノ家ハ慈  
尊万秋樂ト云大臣源信ノ墓ノ説ハ都率万秋樂ト云

日藏上人ノ説尊末述ト云博雅譜ニ慈尊万秋樂ト云

拍光季説ハ唱哥萬秋樂ト云又金高万秋樂共云大  
神惟季説ハ元和万秋樂ト云又宮高万秋樂共云一番  
ノ序吹ヲ弥勒ヲ奉致ト云見佛開法示共云半帽ヲ  
序吹ノ説アリ此ヲ弥勒ヲ奉致共云舞ハ絶ナリ

鼻陀万秋樂共云又脛哥萬秋樂アリ一六ノ説ト云  
アリ破ヨリ六帖ニテ六拍子ナリ物ニ時テ秘スナリ  
院ノ御説ト名ラ豊原氏ニ殊秘藏ニ

相傳也二

此万秋樂ハ日藏上人渡唐之時唱哥ヲ以テ傳テ後歸  
キ我朝其後管絃移ナリ然ニ唱哥ヲ以テ傳ラレ同  
曲為各カニ間慈尊ト唱哥ノ曲ト不遠也然ラ万秋樂

種々異名多あり。妙音院ノ御時若御前五ト云之人ハ  
京極ノ大政大臣宗輔ノ息ナリ彼ノ人自年苗ヲ吹所傳  
受在ラ其曲説ヨリ分テ無子細秘説定テ早身存知  
恙、既ナリ是ハ都率来返ノ樂ト定台仍十種供養ヲ  
不時必ス今掌ノ樂ニ此ヲ用ナリ子細多ト云トモ詮ヲ取  
初々如此切徳深重之樂トカレトモ於末代法花經ノ如説  
ケ持ス余經ノワトク音未ノ錯縁モアルレシ中由在之取  
能、方列シテ法花ノ大海院入レテ示道ヲモ可貴

圓頓者初縁實相造境即中无不真實整頓法  
界一念法界一色一香無非中道已界及佛界  
衆生界亦然墮入皆如無若可捨無明塵慧即

是善提元集可斷邊邪皆中正無道可修生  
死即涅槃無滅可修無苦無集故无世間无道  
無滅故無出世間純一實相、外更无別法  
性寂然名止寂而常照名觀雖言初後無  
二無別是名圓頓止觀  
當知身土一念三千故成道時  
稱此本理一身一念遍於法界

- 一南宮者貞保親王御子
- 一長秋卿者皇太后宮權大夫唐右、博雅三位
- 一胡蝶樂破急 延喜六年八月大上皇覽言相模之時忠房朝臣作之敦實親王作

一 續志摩利 神泉雨巾祈奏此曲号庭巡舞

一 延喜樂 延喜八年 皇子院前裁合尤近中将藤原忠房朝  
臣作或了錦親王作年

一 鷄鳴樂 或譜曰楚國音解之四面楚哥此曲也

一 泛龍舟 隨煬帝造幸江都官作明暹笛譜云發法華  
經之樂也水調曲今要之南呂高的号水調

一 搭翠樂 破急。乘和太常令時嘗來殿前作海濱奏此曲  
集破石殖樹木成山阜之狀敷漂布散薛

藻像海渚之礼川船出其上擬飛帆之踏波載舞童於其  
中似漁入之於藻由平 昂徽復元又笛作譜上舞作尾張濱至

一 散吟打毬樂 唐高宗御製奉供養五臺山文殊

一 菩薩 詠吟按曰此僧正法羅門善提多 拂指師所持傳  
也以此東先倉五臺山欲供養文殊師利菩薩

白翁相白云文殊師利益日本衆生化生彼國行基并因  
之波羅門是國相逢行基其時百歲老翁有二人一者  
自生眼時不見自坐其腰不立又作二人言語不通而二善  
薩相向傳是樂時用腰立各舞悅婆羅門云是二人不知  
舞人行基并各云切利天人靈山同聞衆故今日向聖人覺  
知乎百歲翁其各或曰秋篠舞出時或材邑乱声

一。本朝書籍目錄

神事六 帝紀十

右日本紀已下六部國史也 廿二 氏族九 地理四

公事 廿四 政要 八十五 詩家六十三

類聚 八 字類 十一 和歌別百目錄 和漢 廿

雜抄 八 和漢 廿

管絃 廿二

梨園舊風一卷

梁塵秘抄九卷

三五要略 妙音院太政大臣撰

仁智要略 日撰

系管抄十卷 北院中堂御撰

類聚樂錄

柱譜

宣陽殿竹譜 大田九撰

長竹譜 博雅卿撰

東遊笛譜一卷

龍吟抄

三五要錄十二卷 日撰

仁智要錄 箏譜 日撰

弦夜抄 孝道抄

類聚箏譜

三五中錄十二卷 孝時撰

南竹譜 貞保親王撰

綿譜 賴吉撰

懷中譜 惟季撰

催馬乐譜 二帖

醫書十 陰陽十

官位 廿七 雜 十四

假名 十分五分五十四十分卷 帖 數之

風俗譜 一卷

神乐譜 二卷

人傳 四十八

雜 廿七

已上

永享十一冬 清大外記 葉忠依御注進之



相師後家尼御前御返事

法華經身土卷廿六行品云文殊師利此法華經於  
元量國中至名字不可得聞云此文云我等衆生  
ノ三界六道輪廻云々或ハ生天或生人或生地獄或生餓  
鬼畜生等元量國受生无邊苦亦相シ度法華經  
國不生適 生タリカトモ南無妙法蓮華經唱テハ夢モ  
ナシ人ノ申テモ不聞佛所譬給ニ一眼ノ龜ノ浮木ノ孔ニ值カクキ  
譬給心大海中ハ自由ノ底カメト申大魚アリ午足モ  
ナク隻尾モナシ腹ヲ熱テハ鐵燒ケル如皆 甲ノメタチ  
ハ雪山モ過ク此魚ノ晝夜朝暮子カ七時ノ尅ノハスカ  
ニ腹ヲ申テアタメト思テ赤梅檀ト申木ノ聖木ト

岩ク人ノ中ノ聖人ノ余シ一切ノ木ノ凡木ト申ス愚人ノ如  
此旃且ノ木ハ此魚ノ腹ヲヒヤス木ノアワレ此木ノ葉  
ヲハ虎ノ入ラヒヤシ甲ヲハ天ノ日ニアニアタメハヤト申也  
自然ノコトハリトシニ十年ト申シラカフ龜也トカレトモ  
此木ニ值事難シ大海ハ廣シカメハ老浮木ハ希シ後余  
ノ浮木ハ行合トモ旃且ハ不值經ニ旃且ハ合トモ龜ノ腹  
ヲエリハメタニ様カイ分相應シクニ浮木ノ孔ニ難值經  
況有トモ廣シテ我身墮入ナラ甲ヲアタメ難シ誰カ後  
取上ク又完セハクテ腹ヲ才トシ入トスハ波アラ丹落  
サレテ大海ニシツミナシ經ヒ不思該トシテ旃且ノ浮木ノ孔  
適行合タレトモ我一眼ノヒカメ故浮木西ニ流ルハ東ト見

故イソキ業ト思ラオヨケハ弥遠サカリ東流ハ西ト見  
ル南北モ亦復如是浮木ハ遠トモ近付ク事ナシ如是シ  
テ無量無邊却モ一服ノ龜ノ浮木ノ元難值事ソ佛  
説於リ此譬ヲ以テ法華經難值喻ヲ經值トモ難キ  
唱題目ノ妙法ノ元值ヲハ可得心大海ト者生死海ニ  
龜ヲ我等衆生譬ニ年足ナキヲ善根ノ我身ヲナ  
ハラサルニ譬ハ服ノ熱ヲ我等カ嗅惹ハ熱地獄譬ハ皆  
ノ甲ノ寒キヲ貪欲ハ寒地獄譬ハ千年大海ノ底ニ有  
ル我ホカニ患道隨テ浮ヒカタキニ譬ハ千年一度浮リ  
ハ三患道ヨリ無量却モ一度人間生ラ釈迦佛ノ出世難  
值譬ハ余松木檜木ノ浮木ハ易值旃旃難ソハ值余ノ

一切經ハ易值法華經ハ難值譬タリ經旃旃ハ值トモ相應  
シタル元值カタキヲ縱法華經ハ值トモ所要タ南無妙法  
蓮華經之右字唱ニ奉值事ヲカタキニ譬ハ東ヲ西ト見北  
ヲ南ト見ルヲ我等衆生カレコカホ智恵アル由ラシテ勝  
ヲ劣ト思ヒ劣ヲ勝ト思ヒ無得益法ハ有得益見ニ機  
不叶法ハ機ニ叶ハシ見叶ニ法ハ不叶云真言ハ勝法  
華劣念佛ハ叶機法華經ハ不叶見ニ是也サレハ思ヒヤラ  
セ給ニ佛月氏國ニ出サセ給ラ一代聖教ヲ説給ニ四十  
三年ト申シ始ラ法華經ヲ説セ給スハケ年カ程一切所  
弟子皆如意寶珠如ナル法華經ヲ持リ然トモ日本  
國ト天竺トハ二十万里ノ山海ヲ隔テ以レカハ法華經ノ右字

ヲモ聞事元<sup>ノ</sup>年秋迦佛<sup>ノ</sup>所入滅ナラセ終<sup>ラ</sup>一千二百余  
年ト申セシ<sup>ニ</sup>漢土<sup>ニ</sup>渡<sup>テ</sup>始<sup>メ</sup>未<sup>レ</sup>渡<sup>ル</sup>日本國<sup>ニ</sup>佛滅度一千五  
百余年ト申<sup>レ</sup>日本國ノ元三十代ノ欽明天皇ト申セシ  
御門ノ御時百濟國ヨリ始<sup>メ</sup>佛法渡<sup>ル</sup>又上官太子ト申  
人唐土ヨリ始<sup>メ</sup>佛法渡<sup>ル</sup>其ヨリ以來千今七百余  
年カ間一切經并<sup>ニ</sup>法華經ハ弘<sup>ク</sup>給<sup>テ</sup>自上人至<sup>テ</sup>下  
万民有心人ハ此經ヲ一部或一卷或一品ヲ持<sup>テ</sup>或ハ父母ノ  
孝養トスレハ我等モ法華經ヲ持<sup>ト</sup>思<sup>フ</sup>然<sup>ト</sup>モ未<sup>レ</sup>唱<sup>ル</sup>ハ  
南女妙法蓮華經トハ似<sup>テ</sup>信<sup>ク</sup>如不信<sup>ハ</sup>譬<sup>ハ</sup>一眼ノ龜ノ  
難<sup>ク</sup>多<sup>ク</sup>值<sup>テ</sup>海且<sup>ニ</sup>一聖木<sup>ハ</sup>合<sup>テ</sup>トモ未<sup>レ</sup>龜ノ腹ヲ入<sup>ル</sup>心<sup>ハ</sup>如<sup>シ</sup>  
不<sup>レ</sup>入<sup>ル</sup>心<sup>ハ</sup>須<sup>レ</sup>更<sup>ニ</sup>大海<sup>ニ</sup>沈<sup>ル</sup>也我朝七百余年

之間此法華經弘<sup>ク</sup>給<sup>テ</sup>或ハ讀人或説人或供養<sup>ス</sup>人或  
持人稱麻竹華<sup>ヲ</sup>多<sup>ク</sup>然<sup>ト</sup>モイ<sup>テ</sup>阿弥陀<sup>ノ</sup>名号ヲ唱<sup>ル</sup>  
如ク南無妙法蓮華經ト勸<sup>ム</sup>人ナク唱<sup>ル</sup>人モト<sup>シ</sup>一切ノ經一切ノ  
佛ノ名号ヲ唱<sup>ル</sup>ハ元<sup>ノ</sup>才<sup>ハ</sup>值<sup>ル</sup>カ如<sup>シ</sup>未<sup>レ</sup>誨<sup>ル</sup>且<sup>ニ</sup>服<sup>テ</sup>ヒヤサ<sup>シ</sup>日  
天ナラサレハ甲<sup>ヲ</sup>モア<sup>ク</sup>メ<sup>ス</sup>但<sup>シ</sup>目<sup>ヲ</sup>コヤ<sup>シ</sup>心<sup>ヲ</sup>悦<sup>ビ</sup>人<sup>ヲ</sup>實<sup>ニ</sup>  
華<sup>サ</sup>キテ<sup>モ</sup>菓<sup>ナ</sup>ク言<sup>フ</sup>有<sup>リ</sup>シワサキカ如<sup>シ</sup>但<sup>シ</sup>日蓮一人  
計<sup>シ</sup>日本國<sup>ニ</sup>如<sup>ク</sup>是<sup>ク</sup>唱<sup>ル</sup>茶<sup>ニ</sup>了<sup>ル</sup>去<sup>リ</sup>建長五年ノ其<sup>レ</sup>  
リ<sup>テ</sup>今<sup>ニ</sup>七<sup>百</sup>余年ノ間晝<sup>ニ</sup>夜<sup>ニ</sup>朝<sup>ニ</sup>暮<sup>ニ</sup>即<sup>チ</sup>南無妙法蓮華經  
ト申<sup>テ</sup>一人<sup>ノ</sup>念佛等<sup>ヲ</sup>申<sup>テ</sup>人<sup>ハ</sup>千萬<sup>ノ</sup>心<sup>ハ</sup>吊<sup>ル</sup>無<sup>レ</sup>縁<sup>ノ</sup>  
者<sup>ハ</sup>念<sup>フ</sup>佛<sup>ノ</sup>方<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>有<sup>レ</sup>縁<sup>ノ</sup>高<sup>貴</sup>然<sup>ト</sup>モ師<sup>子</sup>ノ音<sup>ハ</sup>  
一切ノ獸<sup>ノ</sup>音<sup>ハ</sup>矢<sup>ハ</sup>虎<sup>ノ</sup>吼<sup>ハ</sup>大<sup>ニ</sup>恐<sup>ル</sup>日天東<sup>ニ</sup>出<sup>ス</sup>ハ万

里ノ光ハ元 殊形法華經ノ十キ所コリ 弥陀念仏ハ  
トシカリシカトモ 南無妙法蓮華經ノ音出末師子ト大  
トホユルカ如ク日輪ト星トノ光クヲヘノ如シ 譬ハ鷹ト鶴ト  
ノヒトシカラサルニ似タリ 故ニ四衆俱リ子ト上下同ク悪ム 誤  
人國ニ充滿シ 斯人土ニ多ク 故ニ劣ルヲ取テ 勝タルヲ悪ム 譬  
ハ夫ヲハニカリ 師子トハ劣リ 星ヲハニカリ 日輪ヲハツシニ然ル  
邪見ニ悪名世上ニ流布シヤモスハ 鬘奏シ 或ハ罵言ナシ  
レ或ガ杖ノ難ヲ蒙リ 或ハ度ノ流羅ニアタル五卷ノ經文少  
シモタカハスカニ 涙雙眼ニ浮ヒ 悦一身余レリ 衣自身ヲ  
隠シカタク食ハ命ヲ支カセ 例ハ 蘓史カ胡國ニ有シニ雪  
ヲ食フ持子白夷カ首陽山ニ栖シニ 歎ク 折テ自身ヲタスク

非父母誰用ハ非ハ三寶ノ所助 華一日行時モ存ス  
一キニ未入見衆ニ以人ノ加樣ニ度ノ所 音信ノ侍ルハ何  
事ニヤアヤレソコリハ 法華經ノ第四ノ卷ニ 釈迦佛ハ  
夫ノ身ニ入替テ 法華經ノ行者ヲハ 供養ス一十由リ從レテ  
以 釈迦佛ノ身ニ入セ 給フ 歎又過去ノ善根ノモヨクスニヤ  
龍ヲト申 廿人ハ我法華經ニ佛ニ成テハ一ハ未代此所  
經ヲ持テニイラセシ 廿人ヲ守ラセ 終一十由 誓セ 給シ 其  
故ニ此ノ歎 貴レニ

一十日ノ月ノ多ク 夫ノ身ニ入セ 給フ 歎又過去ノ善根ノモヨクスニヤ  
また方好ノ夫おもくまきし 龍を以てきり 花の月ノ多  
みいしきハやたみゆり ありし ありし ありし ありし ありし





坐禪入定之後澄空視之月若書七鬼神神之號而押  
千門若面五大刀之形而懸方戶若拜天神地祇而企  
四角四楹之祭祀若哀乃民百姓而行國主國宰之德  
政雖然唯權所騰弥通飢疫乞容縊日死人滿眼  
卧屍為觀並尸作橋觀夫二難合壁五緯連珠三寶  
在世百生未窮此也早哀其法何懷是依何福是由  
何誤矣

主人曰獨愁此莫憤排胸臆客來共嘆屢致談  
話夫出家而入道者依法而期佛心而今神術不協  
弘威無驗貝觀當世之休過息教後生之疑然則  
仰圖覆而吞恨俯而載而深慮情傾微管聊

披經文世皆皆正人迷悖邪故善神捨國而相去聖人  
辭所而不還是以魔來鬼來災起難起不可不言不  
可不忍客曰天下之災國中之難余非獨嘆衆皆悲之  
今入蘭室初集芳初神至去辭災難並起出何經  
教問其證批矣

主人曰其文繁多其證弘博金光明經云於其國土  
雖有地經未嘗流布生捨離心不樂聽聞亦不供養  
尊室讚歎見四部衆持經之人亦復不能尊重乃至  
供養遂令我等及餘眷屬無量諸天不得用此甚  
深妙法皆甘露味共正法流無有威光及以勢力  
增長惡趣損減人天墜生死河乘涅槃路世尊

我等四王<sup>并</sup>諸眷屬及藥叉等見此斯夏捨其國  
土無權護心非但我等捨棄是王亦有無量守護  
國土諸大善神皆悉捨去既捨離已其國當有種  
之災過表其國任一切人衆皆無善心唯有繫縛致  
害曠野互相讒誦狂及無辜疾病流行彗日生數  
次兩日並現薄蝕色植黑白二虹表不祥相星流地  
動井內發聲暴雨惡風不依時節常遭飢饉苗  
實不成多有他方怨賊侵掠國內人民受諸苦惱  
土地無有可樂之處<sup>上</sup>

大集

日戒十

經云佛法實隱沒鬚髮凡皆長諸法亦安共

端時虛空中大聲震於地一切皆徧動猶如水

並輪城壁破碎落下屋宇悉地坍塌樹林根莖枝  
葉<sup>葉</sup>草<sup>草</sup>菓<sup>菓</sup>茶<sup>茶</sup>尺<sup>尺</sup>唯除淨居天欲界一切象七味  
三精氣損減無有餘解脫諸善論當時一切盡取  
生葦草味希少亦不秀諸有井泉池一切盡枯  
涸土地悉鹹<sup>鹹</sup>惡<sup>惡</sup>詭<sup>詭</sup>訓<sup>訓</sup>裂<sup>裂</sup>成<sup>成</sup>在<sup>在</sup>洞<sup>洞</sup>諸<sup>諸</sup>山<sup>山</sup>皆<sup>皆</sup>焦<sup>焦</sup>燃<sup>燃</sup>天  
竟不降雨苗稼皆枯死生者皆死盡餘草更  
不生而土皆昏暗日月不現明四方皆元尋教現  
諸惡瑞十不善隱業道貪嗔痴信增衆生於又  
毋視之如塵<sup>塵</sup>羣<sup>羣</sup>鹿<sup>鹿</sup>衆<sup>衆</sup>生<sup>生</sup>及<sup>及</sup>壽<sup>壽</sup>年<sup>年</sup>色<sup>色</sup>力<sup>力</sup>威<sup>威</sup>樂<sup>樂</sup>減<sup>減</sup>遠<sup>遠</sup>離<sup>離</sup>  
人天衆皆悉墮惡道如是不善業惡王惡比丘  
毀壞我正法損減天人道諸天善神王悲愍衆



生者弃此濁惡國皆悉向餘方已上

仁王經云國土亂時先鬼神亂々々故万民乱  
賊劫國百姓亡喪臣君太子王子百官共生  
是非天地恠異二十八宿星道日月失時失度多  
有賊來亦云我今五眼明見三世一切國王皆由  
過去世侍五百佛得為帝王主是為一切聖人羅  
漢而為來生彼國土中作大利益若王福盡時  
一切聖人皆為捨去若一切聖人去時七難必起已上  
藥師經云若刹帝利灌頂王等災難起時取謂  
人衆疾疫難他國侵逼難自界叛逆難星宿變  
恠難日月薄蝕難非時風雨難過時不雨難已上

仁王經云大王吾今所化百億恒弥百億日月二一頂  
弥首四天下其南閻浮提有十六大國五百中國十  
千小國其國土中有七可畏難一切國王為是難故  
云何為難日月失度時節返逆或赤日出黑日出  
二三四五日出或日蝕或光或日輪一重二三四重輪  
現為一難也二十八宿失度金星彗星輪星鬼星火  
星水星風星力星南斗北斗五鎮大星一切國王星  
三公星百官星如是諸星各々皆現為二難之火  
火燒國万姓燒盡或鬼火龍火天火山神火人火樹木  
火賊火如是恠恠為三難也大水漂没百姓時節  
返逆冬雨夏雪冬時雷電霹靂六月雨水霜

電雨赤水黑水青水雨土山石山雨沙礫石江河運流  
浮山流石如是夏時為四難之大風吹斂百姓同土山河  
樹木一時滅沒非時大風黑風赤風青風大風地風火  
風水風如是夏時為五難之天地同土亢湯炎火雨然  
百草完早五穀不登土地赫然萬姓滅盡如是夏時  
為六難之四方賊身侵國內外賊起火賊水賊風賊鬼  
賊百姓荒亂刀兵劫劫如是恠時為七難之  
大集經云若有國王於無量世修施戒惠見我法  
滅捨不擁護如是所種無量善根悉皆滅矣其  
國當有三不祥夏一者穀貴二者兵革三者疫病  
一切善神悉捨離之其王教令人不隨從常為隣

國之所侵燒暴火橫起多惡風雨暴水增長吹標  
人民內外親戚其共謀叛其王不久當過會二病壽  
終之後生地獄中乃至如王夫人太子大臣城主將師  
群守官亦復如是已上夫四經文謂万人誰疑而盲  
瞽之輩迷惑之人妄信邪說不弁正教故天下世上  
於諸佛衆經生捨離之心無擁護之志仍善神一聖  
人捨國去所是以惡鬼外道成災致難矣  
此所收ヲ能拜見  
ラ當世ノ障ヲ可見少ニ不相遠了之常ニヨリ人ニキカセム為  
少弗之奉ルニ  
一十四夜月詩 清樽素琴匣先貴明夜陰晴不可知  
一十餘年卜人 子キリテ避ク来テ其廿他人ノ子ヲ生タ  
ルヲ見テ

自恨尋芳已軟，道昔年曾看未同時。如今風擺花

一 根藉綠葉成蔭，子滿枝。杜牧

一 門外若無南北，洛人間可免別離愁。作律詩

一 問花之香風，答外人亦筌，未非故人。南江

一 草鞋非濕笠，非重日莫只憂難路分。東伯

一 四時此地人如織，春見楊花秋見楓。朱恩

此物如此在一時，亦故實早，我之雖就初心之時者，是非迷前後，藏知所詮其樂之名，見其

下以披帶，可見心

樂之略頌云。大用，見了，其各作者，有能為知之，是心，了，書之

三平調

三 臺 序二帖，依稀不傳之，意句，云，詞在之

萬 歲 樂 只拍子，有舞，自事帖，世次中帖，曲云

皇 章 右遊，解，并序，有之，絕，平，各，各，子

景 頭 樂 天皇御元帳，蜂拂，樂云

慶 雲 樂 西見，平，八幡，信，遷之，樂云

永 隆 樂 唐人，各，心，并，列，國，名，金翅鳥，之，声

五 帝 樂 仁義，礼，智，信，也，迴，息，六，多，取，實，拍，子，說

信 疆 樂 者，波，羅，門，僧，正，傳，舞，者，上，宮，太，子，為，歌，守

屋，臣，奏，此，曲，破，陣，曲，舍，乞，音，下，云，了，了，口，傳，在，之

想 史 意 執，聲，奏，此，曲，杖，南，側，各，心

勇勝昔、舞在道行アリ、今、不聞時、元夢説在之  
春楊柳大隈疆十云。夜半、亦、退、音、声、用之。

鷄德 同名鷄、有五德

小娘子 身量、終、其、長、三尺、八十一、之、時、作、之

王昭君 南宮、徑、尺、八、吹、傳

感恩多 藤花、宴、退、音、聲、奏、此、曲、古、老、云、取、祝、祈、取、奏

此曲

老君子 大唐、男、女、誕、生、時、奏、之。林、新、渡、物、樂、行、珠、勝、之

偈頌 觀音、經、之、偈、頌、之、八、情、終、正、在、之

。盤、涉、調

藕合香 天竺、河、首、大、王、病、時、作、之、一、越、調、音、三、曲、下

口傳四帖、夜病消障、現在之急、三五ノ後、急人祝有之、三帖  
返舟取之所アリ、二五祝ナリ、四帖只指子秘申秘

萬秋乐 百海、國、ヲ、リ、フ、ク、ハ、異、名、種、在、一、十、五、異、名

音家傳之、傳祝、此、兩、曲、深、重、之、仍、略、之

秋凡樂 南池、院、法、時、作、之、舞、出、品、音、人、時、入、調

輪臺 國名、之、青海、波、序、之、青海、波、平、調、也

鳥向樂 耶、尔、之、糸、向、行、道、鷲、首、向、故、名、之、白、柱、鳥、急

宗明乐 所、願、供、養、送、導、師、咒、願、奏、此、曲、昔、上、舞、在、早

採素老 別、裝、束、係、物、アリ、有、拜

蘓莫者 舞、出、古、乐、乱、声、山、神、出、現、聖、德、太、子、河、内、花、水

ニテ、馬上、ニテ、尺、ハ、ソ、ル、レ、ル、ニ、シ、テ、山、神、舞、法、隆、寺、祝、之、席

大鼓如荒序

竹林樂 大國之舞 祀奏之者 不用

白柱 德貫子云 越殿樂急 退出音聲奏之

下高座時初拍子付笙安城示 為破以當曲為急再  
道行 但舞絕平本平調曲 若林鐘別又林羽執天

叙氣 禪院 院拍子卜言下有唐拍子物中二付笙一說

付初拍子 秘說 但初拍子可然其謂八分三三言  
大鼓加之同秘說 志上毛付之 日十

千秋 樂 大葦會風俗 後此個人前此曲裁之

遊字 吹數及時一度喚取 吹一度 樂始 返

黃鐘調

喜春 樂 行放法仰八情大菩薩 奉負男山石清

水宮 奉圖 兩依 喜相告 喜心 樂曲 作之

桃李 苑 舞絕 以央宮 示 舞會 通用 三月三日由  
水字奏之

淨聖 示 又清 上 示 清上我若

泛龍舟 各慶 暑別 必不 之中 風來 有序 二帖 今

以當曲為破以散吟并結示為急當由水調曲之詞殊勝  
示 常可吹

散吟 并 結 示 三十二相 今 但 本 說 有

央宮 示 春宮 始 立 給 時 奉 慶 桃李 苑 舞

感城 示 游 冰 天皇 御 儀 有 舞

平城 示 中 知 言 安 世 知 作 之 号 房 中 示

聖明樂 太宗樂人馬順作之并大食調曲也

應天樂 冬音詳行道用之

重光樂 重光大臣作不審

河南浦 兼和太章會尾張連濱主作之傳在之

平靈樂 此曲本者平調物也

海青樂 兼和御時行幸神泉苑乘取奏此

拾翠樂 舞絕平水調曲之催了樂合序青柳

破行勢海 急行川 序破 不吹之

西王樂 序破

青白蓮華樂 水調曲。鳥急渡物也

大食調 大食調曲

秦王破陣樂 序吹早吹アリ云并三藏舞給名七

德舞 大食調曲

傾杯樂 大唐物也 序二帖有絶早 右傾杯醉在東

散半破陣樂 牽川神新羅軍 現給相模柱之未用之

一人舞 在面裝束アリ序二帖破七帖

太平樂 武將破陣示道也 朝胡子破太平子。急

大歡場 大歡二況アリ

賀王恩 御賀樂也 奏音詳用之皇座章急為道

行舞出也

折球樂 玉搔ナリ別裝束競馬時裝束也

還城樂 大食調曲古記云此曲唐目錄入双調曲也

者亦取之可見

放鷹乐 乞食调曲野行幸奏此曲船乐用之

天人乐 大由鷹取作

輪鼓禪脱 大鳥松月代上云是也盜拍子可有委細

本ノ所ノ可見説ノ多ク

蘊芳菲 乞食调曲 競子行幸奏之

栞頭 天竺ノ乐之 併哲修ノ嫉妬ノ自ルヲ以テ

仙遊霞 所官群行之時勢田橋上ニテ奏之

唐人三臺 幼主ノ御時被停上子細見一茶院ニ記ス

長度子 退出音声管絃行幸之樂三様大ヲカハル

壽日臺 哉調

皇帝 玄宗皇帝平國即位時令作給粟田ノ道唐

渡ハ大鼓大ニシテ可嗜習古シ

因乱旋 皇帝卜一度 渡ハ后宮作乞大乃真繩渡

春鶯轉 天長寶壽乐ト各ク 合管青作

羅陵王 没日還年乐ト云 此曲富ワサト不裁

四方荒序ハ方ニ面已下説ハ帝可見之

玉樹後庭花 霓裳羽衣曲但舞ト樂ト別ク

陳後主取作ヤ云回音アリ三ノ序ト三ノト有此内ニ云回音アリト云只惣ノ樂ニ有子細不可申沙汰曲ニ可レトテ不習吹絶キコト努ルルハカラス

寂涼列 玄宗皇帝遊上林苑之時奏レ曲花畫用

一曲ノ涼列、花畫放トアリト云

賀殿 此曲惣名雖号賀殿ト以嘉祥乐ヲ為破以賀殿為急以迦陵頻急為道ノ百拍子ト云アリ此說常共アリ兼和師時渡作者アリ本取リ可見

北庭樂 亭子院時於不老門北庭作之當曲アリ綾ノ本本取リ不見

策和樂 以年号為本名又冬明永清上作之董合時ノ本ト平

胡飲酒 汝陀調曲勅使二度胡國王ト李本取リ不見之ハ難知大鼓等習アリ兼持持ノ為

玉槍弄心昔ハ舞拍梓ノ様ナリサホ久持如太平乐射奉供花ノ本用十天示出來ハ後ハ用十天樂

十天樂 汝陀調曲東大寺講堂供奉日天人十人ト寫ト下

元佛前卷ヲ供奉ハ塔タニホリ作リ可變由依宜旨笛師常世ト魚取作トヨリ十天本ト号

臺弄樂 清上作之舞ハ真繩作之序ハ絶平

河水樂 此曲兩乞ノ本ハ近來登高座乐用

溢金樂 大田磨作之舞絶平

部應樂 昔ハ舞有乞名梁判部應樂

廻环樂 近來唄師登乐奏之古老傳大行道用

澁河多 行道用ハ汝陀調曲右本ハ序絶平此朝ハ

慈覺大師引声念佛ヲ横笛吹傳テ合渡給其

音澁河鳥ナリト云



歌曲子 十六拍子當家之用之或十二本取之可見

迦陵頻 童舞 天竺祇園寺供奉日 迦陵頻來舞

時吹音天奏此曲阿難傳之流布トシ波羅門僧正傳  
之舞時銅拍子ノ以ウ鳥ノ音ニ子ナ

安樂塙 沙陀調曲近來法用用古乐但カコ可步

臺德塙 古乐一院新乐可步鞞鼓三馮武藏作之

酒胡子 名醉公子唐人欲飲酒ノ時吹

武德乐 漢高祖作之相撲節時獻舞

新羅陵王 古乐天王寺陪臚ノ破用之音取用陸王

破如陵王破加拍子急ノ号國長乐本取ノ可見之

菩薩 古乐 天竺來之波羅門僧正并拈指傳

殊勝ノ乐ノ本取ノ見常ノ吹ノ可覺樂ノ

雙調

春庭乐 夏凡乐 春庭花十号舞 時大鼓一祝

アリ始大食調示兼和御時雙調曲トナル春節

會衆音群用之古乐檢一鼓之故ニ新古カ子凡乐

也仍カコヲ弁之

折花莞 昔ハ華有平桓武御時久礼真夜僧ノ

本ハ大食調曲ニ 兼和御時双調ノ人

殊乐ハ渡物同本調子ノ可見如此同事様

ナレトモ 撰之心常ニ此後ノ見ヲ注殊夕ル

處見レト思フ本取コト哉命枝見ノ打  
返ハ抄物ヲ見レハ執心モ出来レ故人先祖  
心モ見志ノ忠切リモ可知イタリテ、行時モ  
アリキ道ヲラス能ク可思慮シ

一 瀕弥山頂。功利天。善見城。四方天。常橋天。持骨天。堅音天。  
夜摩天。都率天。樂愛化天。他化自在天。  
梵衆天。梵神天。大梵天。小梵天。  
无量光天。極光天。小淨天。无量淨天。  
遍淨天。无雲天。福生天。廣果天。  
无煩天。无熱天。善現天。善見天。

色究竟天

。空。象。識。度。不用。度。非想天

コレヨリ形モナシ色モナシ心ハアリアルナリ  
四方天ノ人ノ命ハ人間五十年ヲ一晝夜トシテ五百歳ニコレヨリ又上一倍ハ  
久也他化自在天ノ命一万余千歳ニ非想天ノ命ハ六万余千歳ナリ都率天ノ淨土

一金輪原三億二萬由旬。水輪厚八億由旬。風輪厚十六  
億由旬。廣无数。

一 九山皆金輪ヨリ出タリ八海ニ内海ハ皆金輪付ノ外海付  
取モアリ不付一取モアリ大音八海

一 八埏海三億一千万二千由旬

一 九大山大海ニ九大山者頂弥山及七金山加鐵圍山ニ八  
大海者九大山之間海ニ 文ニ於金輪上有九大山妙

高山王處中而住余八國迎繞高者七山外有大別等

此外復有鐵圍山下如輪圍一世界

一。善見城之夕乃此善法堂アリイスイノ角ニ因生樹アリ

コノ影月ノ中桂ト云日ノ中ニハカラスアリ月中ニハ兔アリ

八雲抄ノ卷ノ下ノ中ニハ

井蛙抄ト云哥抄物ニ

後鳥羽院遠取リ九条内大臣殿干時権大御言一被遣

勅書ト云侍リハ哥ト云可右誓古法性ヲ因白

昔最勝寺の額ハ書老信ノ門前ト云ト云ニ教面ト

ト云。妙音院入道仁平河原の時琵琶抄厚を孝

傳ト云中納言及田良鑑云傳ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云

ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云



東海姬氏國百世代天王砥司為輔翼銜主  
建元功始興和法事終成祭祖宗才枝周天  
壤君臣定始終谷填田孫走魚禾主羽翔葛  
後干戈動中微子孫昌白龍遊矢水窮忽奇  
胡城黃鷄代人食黑鼠食牛腸丹水流盡後  
天命在三公百王流已竭猿犬稱英雄皇流  
鳥野外鐘鼓喧國中青丘與赤土范々遂為  
空

玄一云教相為三一根性融不二化道始終不始

終三六師弟遠近不遠近ノ文

行一云前之兩意約述門後之一意約本門

十二調子者十二目縁之五調子者五行五智也

鳧鐘調

二り之り夕中々之りテ火五上りり  
二り之り夕中夕上火上りり

雙調曲

二り六り上りカカカカ中二りり

上五黃無調

下り上り下中中上り上火五上り下りり

新金調

夕り下り夕上テ上テ夕りり

黃鐘調

夕り下り夕上テ六火下夕りり

壹越調

六<sup>リ</sup>夕<sup>リ</sup>六<sup>文</sup>丁<sup>夕</sup>上<sup>五</sup>文<sup>六</sup>六<sup>リ</sup>リ

平調由

甲<sup>リ</sup>中<sup>リ</sup>甲<sup>六</sup>中<sup>六</sup>中<sup>夕</sup>上<sup>二</sup>丁<sup>リ</sup>

勝絶調

丁<sup>リ</sup>中<sup>六</sup>中<sup>六</sup>中<sup>リ</sup>上<sup>リ</sup>五<sup>文</sup>丁<sup>リ</sup>

下無調

五<sup>リ</sup>丁<sup>リ</sup>五<sup>文</sup>丁<sup>リ</sup>中<sup>リ</sup>夕<sup>文</sup>由<sup>五</sup>リ<sup>リ</sup>

神仏調

中<sup>リ</sup>上<sup>リ</sup>六<sup>文</sup>中<sup>上</sup>五<sup>文</sup>之<sup>中</sup>リ<sup>リ</sup>

中<sup>リ</sup>中<sup>リ</sup>中<sup>文</sup>夕<sup>リ</sup>五<sup>リ</sup>丁<sup>之</sup>中<sup>リ</sup>リ

五<sup>文</sup>中<sup>五</sup>リ<sup>丁</sup>之<sup>中</sup>リ<sup>リ</sup>

盤淺調

中<sup>リ</sup>五<sup>リ</sup>中<sup>文</sup>夕<sup>リ</sup>五<sup>文</sup>丁<sup>六</sup>中<sup>リ</sup>リ

鸞鏡調

之<sup>リ</sup>中<sup>リ</sup>丁<sup>五</sup>中<sup>由</sup>丁<sup>リ</sup>之<sup>六</sup>之<sup>リ</sup>リ<sup>リ</sup>

是鳳王<sup>之</sup>之塞<sup>不</sup>同<sup>夕</sup>上<sup>リ</sup>ハ

之<sup>リ</sup>中<sup>リ</sup>丁<sup>文</sup>中<sup>リ</sup>夕<sup>文</sup>上<sup>リ</sup>丁<sup>リ</sup>之<sup>六</sup>

之<sup>リ</sup>リ<sup>リ</sup>

信濃國のきい免り 風をきき 雨たをこね けりりすす  
の 照那の社に 風後といふの とあきり これを春めを  
一 免りぬ りりの 又二免り 夕文 といひ けりり 百りめ  
いりり 三重す 四重し 五重い 六重の 七重けりり 八重  
て 農業者のきい 免りしを つる 丁文 中リ 夕文 日め  
光し みや けりり 名おきりり 七重い 八重い 九重い 十重  
能事 大見元と 子人 三重い 四重い 五重い 六重い 七重  
こねと 奇りり 七重い 八重い 九重い 十重い 十一重い 十二重い

こゝろにいとく世下の世俗の事なれどもかやうめりて其の  
世に於て可成りくも云ふもつとむねとわたりて其の後教  
はるまじの事なり

志なきかゝるべき此橋原よりぬめ大ゆりにすまむ  
をもちくろくふりて五品位梅一あり

一 泣に相との澄明よかりての澄世をさやむれきり  
をいんといえく

悲之忽悲莫悲於老後子恨く更恨莫恨於少

先親よりいへる希後さういふをさうかこはる

江淹恨賦に平原より人のつむひりて暮

草骨よまはるけり枕中よ鬼をさく日を生した

いふ天逆に陽きや僕もいふくくくく

人におもふくもやすすき 古のらふもあつて死

りしと思ふにけりいふくくくくくくく

この唐帝やうまひし列王は長恨歌と云ふ

に及たり漢皇の李夫人をさるれりいふ年なり

老ん骨に化して塵にありてこの世にさうくさう

ありあやうこれたういふはあうくくくくく

女の中のうらみのつれぬき見しつれぬき

すらきうむねきよまの世にさうあうくくく

るまうくくくくくくくくくくくく

ぬ鳥のけりいしうくくくくくく

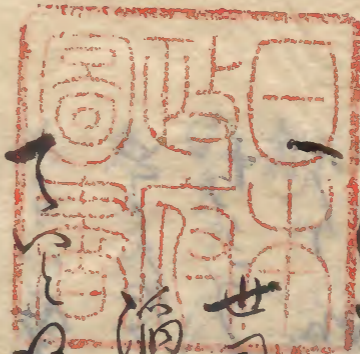
たれも 出来たりぬあひあうくくく

くくくくくくくくくくくくく





世に生るる人其の志を以て入るるに依りて其の志を以て死する  
も其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
は其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
す其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する



世間人而為世人再々行暮川園水而為川水  
滴々日産の文章集れ久依かけし其の志  
ていし其れは志れもその志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
是ありて其れは志れもその志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
は其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する

後学院作られ

志法に依りて其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する

加ふるのこも其れは志れもその志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する  
其の志を以て生るるに依りて其の志を以て死する

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, with two red square seals. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The seals are positioned in the center and lower right of the page.

十二下

